

～「皮膚疾患クエスチョン 100 プラス α」執筆の紹介～

普段から多くの皮膚科専門誌や医学論文を通読し知識の吸収に努めていますが、日々の診療に活かせる知識や技術、つまり実際に臨床現場で“患者さんの役に立つ”ことは 100 分の 1 にも満たないでしょう。かといって、その水面下の地道な努力が無意味かという決してそうではなく、膨大な知識は診療に深みを与えてくれるので不断の努力は欠かせません。

医療人は多くの知識を吸収しなければなりません、その多くが資格試験や議論のためだけの知識に過ぎません。“患者さんの役に立てる”ことができないのであれば、いくら知識を身に着けても「死学」に過ぎない…。そうではなく実際に“患者さんの役に立つ”学問、つまり「実学」の書の必要性を痛感して参りました。

医療人が日常的に経験する皮膚疾患領域は、患者さんからの質問や要望が最も多い分野です。ですから多くの医師・薬剤師・看護師などの医療人が、医療現場で“実際に役に立つ”皮膚科の「実学書」を読み、「皮膚疾患対応力」を高めることによって、担当する目の前の患者さんの役に立てます。

皮膚科医過疎地域で孤軍奮闘し、地域医療に向き合う日々を送って来たからこそ、涙している患者さんには身につまされるおもいを持ち続けて来ました。そのため、「全国の皮膚疾患に悩んでいる患者さんたちの『涙』を『笑顔』に変えてあげてほしい！」という強い願いを込めて執筆いたしました。堅苦しく考えずに気軽に手にとっていただき、隙間時間に少しずつ読み進めていただければ、「皮膚疾患対応力」が着実にレベルアップします。医療人みんなで皮膚疾患に悩んでいる患者さんたちにきちんと対応できるようになれば、皮膚科医の人員やレベルに影響されてしまっている気の毒な患者さんは減るはずだと希望を持っています。

また、依頼があった病院へ講演に伺っています。

テーマ：「楽しく学ぶ身近な皮膚疾患」

講演終了後に、謝金相当額で書籍「皮膚疾患クエスチョン 100 プラス α」をプレゼントいたします。